

# LOVE 青ろう

平成30年8月24日 第8号

夏休みが終わりました。いかがお過ごしでしたか。異常気象、災害の多い夏だったように思います。個人的には、沖縄県知事 翁長雄志氏のご逝去に涙した夏でした。青森市内の小学生が海の事故で命を奪われるという悲しい出来事もありました。

本校26名、病气や事故、怪我もなく全員が元気に2学期を迎えられたことに感謝しています。子ども達が学校が好きで、毎日元気に笑顔で登校してくることがどんなに幸せで尊いことか、当たり前の変わり映えしない日々の有り難さが身にしみるこの頃です。(年でしょうか 笑) 2学期85日間、笑顔で終業式を迎えられるよう努めます。よろしく願いいたします。

7月23日 月曜日 青森県総合学校教育センター 教育相談課 山下孝子指導主事を講師として「いじめへの対応について」と題した校内研修会が行われました。その中で「いじめ」が校内で発見されたら、学校はこのように対応するということを保護者に周知することが大切だというお話がありました。大切なことをお伝えしていないことを猛省した次第です。便りを通してであることを申し訳なく思いながらお伝えします。

## 青聾で「いじめ」が確認されたら

### 1 その事実を発信してくれた生徒 関係した生徒に事実確認をします。

- ・ 事の重要性を受けて 確認は素早く個別に行います。授業よりも確認を優先することを御理解ください。
- ・ その後すぐに、生徒支援会議を開催し確認した内容をつきあわせ、事実が食い違っている場合はその場にいた生徒を含め、同じ場所で状況確認をし「事実」を明らかにします。
- ・ 本当のことを話す勇気をもつことの重要性を子ども達に伝えます。そして、本当のことを言ってくれた勇気を褒め心のケアに努めます。
- ・ 県教育委員会に報告します。

### 2 保護者の方への報告、今後について話し合いの場をもちます。

- ・ いじめについて確認された事実を保護者の方に報告します。学校に来ていただく、または、学校からご自宅に出向いて、その日のうちに事実について報告し、子ども達の今後について話し合いの場を持ちます。
- ・ 必要に応じて、学部または学校全体での集会を持ちます。

### 3 個々の子どもに応じた、今後に関わる指導を行います。

- ・ 保護者の方と話し合った内容も含め、個々の子ども達に応じた指導内容並びに指導体制を構築します。その際、県教育委員会や専門家からの助言、指導を受けます。
- ・ 小学部、中学部の児童生徒は特別指導、高等部の生徒は特別指導に加え、状況に応じて謹慎などの処分を行います。
- ・ 事実の裏にある子どもの心の中のさまざまな思いに、子ども自身が気づけるよう、寄り添った支援を時間をかけて行います。
- ・ 子ども自身が振り返り、その時の行動、理由、気持ちを表現できるように支援していきます。

#### 4 収束するまで子ども達の見守りをします。

- ・心のケアを十分に行い、いじめに係る行為が3ヶ月止んでいる、いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じなくなるまで見守りを継続します。
- ・収束してからも日常的に見守りや相談を行っていきます。
- ・二度と起きないように「いじめ」とは何か、起きないようにするためにはどうすればいいか等、子ども同士話し合う機会を設け再発防止に努めます。

※本校ホームページに「いじめ防止基本方針」が掲載されています。御覧ください。

### いじめが起こらない学校作り

#### 1 主体的な特別活動の実施

- ・縦割りでの生活委員会 ・生徒会主催行事 ・革命箱の設置 ・スローガン～みとめ合おう仲間の気持ち 学部をこえて心をついに～
- ・子ども達が話し合っ創りあげていくことを大切にした学校・学部行事
- ・生徒主体の部活動

いじめが起こらない、そういう気持ちにならない学校作りに力を入れることが重要だと思います。本校は特別活動での心育を積極的に行っている学校です。「話し合う」ことには時間がかかります。ただ、そのことにより子ども達は自分と他者との温度差や折り合いの付け方を時間をかけて学んでいきます。生涯にわたる人間関係作りの土台となります。

#### 2 発信できる場の設定

- ・個別の相談週間 ・革命箱（意見箱） ・相談カード
- ・保護者アンケート

辛い気持ちを発信する機会を増やしています。担任だけではなく、様々な先生と相談できるようにしています。でも、言えない子どももいるかもしれません。校内に意見箱を設置し、相談カードも活用して発信できるようにしています。また、保護者の皆様にアンケートを取らせていただき、家庭での子ども達の変化からもいじめに気付くことが出来るようにしています。

#### 3 いじめ防止委員会の開催

防止専門員 本校元校長 風晴 富貴氏  
年3回開催し 取り組みについて指導助言をいただいています。  
本校のハートフルリーダー（子ども達の相談の窓口） 阿保 孝志朗

#### 4 職員一人一人の教員としての人間力

子どものちょっとした変化に気付ける 動ける教員  
子どもから信頼されている 自己開示できる教員の育成 自己研鑽できる環境

※ 最後は人です。法律やシステムが整っていても機能させるのは人ですから。心や時間にゆとりがなければ人間力を高めることは困難です。現場の多忙をどうにかしなければ、1番大事なところが培われていかない。私の取り組むべき課題です。  
2学期 「明日も学校に行くのが楽しみだな～」という子どもが増えるよう努めます。

※山下氏の言葉